

項目		説明
試料・情報の利 用目的 及び 利用方法	研究課題名	肝細胞癌における予後予測モデルの構築
	研究目的	肝細胞癌は、外科的切除可能である症例に限っても5年生存率が56%（第19回全国原発性肝癌追跡調査報告 日本肝癌研究会）と、難治がんとして本邦では5大がん数えられている。ウイルス性肝炎やアルコール性肝障害、あるいは脂肪肝など、高率な発癌母地を背景に有することが特徴であり、初回治療により根治された後も再発を繰り返すことが殆どである。また、治療においては、背景肝機能を加味した治療戦略が必須であるため、単独のがんステージング(UICC staging など)が用いられることは少なく、CLIP scoring system (Hepatology 1998) や BCLC staging system (Semin Liver Dis 1999) , JIS score (Hepatology 2004) などの統合ステージングシステムが普及している。 本邦および海外の治療アルゴリズムは上述の統合ステージングシステムを元に作成されているが、繰り返される再発および進行悪化する背景肝機能を包括した肝細胞癌治療アルゴリズムの確立が必要と考える。
	研究期間	2015年12月10日から2020年3月31日
利用する試料・情報の項目 (チェック[X]が入った項目を利用します)		<input type="checkbox"/> 血液 <input type="checkbox"/> だ液 <input checked="" type="checkbox"/> 臨床検査データ <input type="checkbox"/> 病理組織 <input type="checkbox"/> 排泄物(尿・便) <input type="checkbox"/> その他(記載して下さい) <input type="checkbox"/> 毛髪 <input checked="" type="checkbox"/> 診療記録
試料・情報の 管理について の責任者	研究責任者	森本 学
試料・ 情報を 利用す る者の 範囲	当センターでの実施診療科/部局等	消化器内科肝胆膵
	共同研究の場合、共同研究機関および各施設での研究責任者	なし